

# 鳥取県立鳥取看護専門学校における学校運営評価(自己評価)の結果

R1. 10月実施

※評価尺度：5)よい 4)ややよい 3)普通 2)やや不十分 1)不十分

内容	評価項目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
① 学校経営	学校のビジョン及びそれを実現するための目標を策定しており、その目標が教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>単年度組織ミッションを作成し、職員会議で検討している</li> <li>組織ミッションは、H25年度からホームページに掲載</li> <li>施設整備に関する中期(3年)・長期(5年)目標は作成し、4年目にあたる。</li> <li>各職員が、組織ミッションと、自分の担当業務との関連付けを行い、業務が実施できるように、キャリア開発シートを作成する際に組織ミッションを意識して記載・評価している。</li> </ul>	
	目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>単年度組織ミッションを基に評価を実施している</li> <li>評価結果を回覧し、職員に公表している。また、評価結果は、県ホームページに達成度(数値目標)として掲載</li> <li>組織ミッションや教育目標等の評価は、10月、3月に教務会や教務主任会で検討し、次年度の計画に反映している</li> </ul>	
	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度から、学校評価(授業評価(講義・演習・実習)・学校運営評価)を教職員全員で実施している</li> <li>また、H26年度から、学生による学校評価アンケートを行い、学生の意見を聴取し、課題への改善策について検討し、解決策を、学生に説明している</li> <li>なお、学生からのフランクな意見を聴取するため、H26年度とH28年度に鳥看川柳を募集した。多くの学生から投句があり、優秀者には、校長賞等の表彰を行った。</li> <li>毎年度、外部関係者(県監査委員会・県会議員等)に、教育内容や運営経費等の定期監査を受けている</li> <li>また、年に2回程度、学校運営会議(県主管課・実習病院等)で学校の問題や課題を協議している</li> <li>学校運営評価、授業評価(講義・演習・実習)、学生による学校評価アンケート、H26年度からホームページにアップしている</li> </ul>	
	特色ある学校づくりを進めるために、教育内容等の充実に向けているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義(統合分野 看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ(各30時間))については、特徴的な教育方法(PBLテュートリアル教育)を取り入れて特色のある学校づくりに努めている。</li> <li>PBLテュートリアル教育は、H25年度に県外先進校への視察、情報共有を実施し、課題整理や記録用紙等の改善を行った。</li> <li>また、課題整理を踏まえ、H26年度には講義への教員配置を手厚く行うと共にチューター役を学ぶため、新たに赴任した教員に対して、先進地視察を実施した。</li> <li>さらに、H27年3月には2年間の取組み内容をまとめて、池西静江先生を講師として教員研修を実施し、改善した講義内容への助言を得ると共に新たな教育方法の修得を図った。それらの検討・改善策を踏まえて、平成27年度からPBLテュートリアル教育の効果的な実践を図っている。</li> <li>H26年度学校評価の検討結果から、本校の教育理念にある「主体的に学習する姿勢を育む」を達成するために、学生自らが考えるクラス目標を掲げてクラス運営を実施した。</li> <li>H27年度は、基礎看護技術における看護実践能力の向上を図るため、基礎看護学における基礎看護技術(講義・演習)の見直しを実施した。その内容は、病院の新人研修の見学、H27年3月卒業生へのアンケート調査等の実施であり、講義・演習の内容や方法を分析・検討し、H29年度の教育内容に反映することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PBLテュートリアル教育の充実のため、年度毎の見直し作業を今後も継続して行う必要がある</li> <li>各クラスの特性を踏まえたクラス運営が重要であるため、今後も学生自らがクラス運営に努力できるような意識の醸成が必要</li> <li>基礎看護技術の向上は、臨床現場に求められており、今後も3～5年のスパンで教育内容の抜本的な見直しをする必要がある</li> <li>2022年度のカリキュラム改正に向けた情報収集をし、今後改正に向けた体制を整えていく必要がある。</li> </ul>
	校長のリーダーシップのもと、職員が一致協力し、組織的・機動的な学校運営を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務会を定期的に実施すると共に教務主任会を必要時に実施し、情報共有し、学校運営上の課題や重要事項を検討している。</li> <li>毎年度、異動の有無にかかわらず、職員全員が引継書を作成し、各種業務や教科の引継ぎをスムーズにするよう工夫している。</li> <li>教員の実習配置や授業担当科目は、教員の経験を活かした配置としている。</li> <li>平成26年度は、実習要項の抜本的な検討を実施し、各実習の目的・目標と評価との整合性を図ることができた。平成27年度からは、実習要項を新バージョンとして活用すると共に、新年度版作成時期に内容の見直しを実施している</li> </ul>	

② 教育課程・教育活動	6	教育目標に、養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待される卒業生像は、履修概要に記載している。</li> <li>・卒業時の到達目標の記載もある。しかし、卒業時の到達状況の客観的評価はできていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時の到達状況の把握が必要。他校の実態を把握し、方策を検討する</li> </ul>
	7	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性のある内容になっているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程は、H21年度 新カリキュラム作成時に検討した。毎年の履修概要作成時に、授業時間数や講師の見直しを実施している</li> <li>・教育内容については、領域担当者が見直し、教務会で共有している</li> <li>・H25.10.4 中国四国厚生局指導調査において、実習目的・目標と実習評価の整合性を図るように指導を受け、実習要項の抜本的な見直しをH27年度から改正した。</li> </ul>	講師が変更になる際には教務会で共有をしていく。
	8	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の教育課程は、H21年度新カリキュラムであり、教育理念に表現されたワードと整合性がとれたものになっている。</li> <li>・H25.10.4 中国四国厚生局指導調査において、学期で定められた授業時間数を守るように指導を受け、H26年度から認定試験も含み、学期ごとの履修時間数を計画している。H31.3には鳥取県看護師等養成所指導調査があったが、教育課程における指導事項はなかった。</li> <li>・専任教員が担当する講義・演習・実習は、毎年度、各領域毎に評価し、講義・演習・実習の内容に反映させている。基礎分野、専門基礎分野については、H27年度～28年度にかけて、「基礎看護技術の学内演習方法の見直し」を教員研修テーマに取上げ、各領域での演習内容の重複や不足部分の洗い出し、病院の新人研修の見学、H27年3月卒業生へのアンケート調査を行い、教育理念に合致した教育内容となっているかの検証を行い、その結果を基に、改善点をH29年度教育内容に盛り込み、運用している。</li> <li>・時代の要請にマッチするよう教育カリキュラムの見直しを行い、平成30年度から、在宅看護論実習に病院の地域連携実習(1日)、精神看護学実習に地域活動支援センター実習(1日)を組み入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度のカリキュラム改正に向けた報告書の発表がされたら、カリキュラム改正の検討を進めていく。</li> </ul>
	9	シラバス(授業計画書)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスは、H25年度に様式を統一し、事前課題やサブテキストを具体的に記載することとした。</li> <li>・授業科目間の調整は、外部講師を含めてできる限り調整するよう努力している</li> <li>・各専任教員は、講義の最初の時間に、シラバスを活用し、講義の組み立てや目的などの系統的な説明を実施し、学生にシラバス活用の意識づけをしている</li> <li>・H27年度から、学生のシラバス活用促進を図るため、先輩からの声「先輩学生からのメッセージ」を追加し、外部講師にもシラバス「6 学生へのメッセージ」を丁寧に記載していただくよう依頼を行った</li> <li>・シラバスの「先輩学生からのメッセージ」についての評価項目(H31. 9月実施)は、1年生3. 8と昨年より若干上昇した。</li> <li>・学年ガイダンスが、年度初めのオリエンテーション以外にも折に触れて、シラバスの活用方法について周知している</li> </ul>	

② 教育課程・教育活動	10	授業の一貫性を確保するため、1科目の授業担当者数を最小限にするともに、担当者間の連携がとれているか。	3	・学内講師については、基礎・成人は、担当者が複数となっているが、その他の科目については、一人の教員が担当しており、講義の一貫性は担保できている ・専門分野については、外部講師が複数で教授している科目もあるため、各科目の担当教員が教育内容の調整を図っている	
	11	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3	・学習の順序性を考慮して、時間割を作成している ・実習との関連を含めて講義の計画を立案したり、学生の負担を考え、複数の演習が重ならないように配慮したり、学生のレディネスに合わせて、演習を研修として組み入れたりと、時間割の作成に配慮している ・時間割は、病院職員の勤務体制が決定後に月末でないかと学生に配布できないが、認定試験や学校行事等、重要な計画は、早期に学生掲示板に記入し、周知している ・授業変更がある(臨床の職員は急な予定が入るため教し方ない)	・時間割の作成が早期となるよう、病院職員等との調整を今後も努力する
	12	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3	・一部の授業(基礎看護学・PBL教育)については、担当者が授業案を作成し、教務会で協議し、改善策の検討を行っている ・PBL教育は、授業終了後の担当者ミーティングを重ねると共にグループ発表会に教員全員が参加し、授業の達成度を確認し、意見交換を図っている ・H26年度から授業評価・演習評価結果(学生アンケート)の分析を踏まえて、教務会において、基礎看護技術講義や演習のチェック項目や評価基準等の共通認識を図ると共に、演習終了後の意見交換を活性化している。 ・演習前に演習担当者が、演習に参加する教員に看護技術のデモを行い看護技術の共通認識をしている。	・今後も授業研究等を実施し、授業内容や指導方法の工夫について検討する必要がある。 ・教員が年度末に、各自で実施している授業評価を共有し、教育内容や方法等を検討するための「検討会」を開催する必要がある。
	13	未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	3	・未修了科目や不可の多い学生の把握を行い、必要者には面談を持ち、その原因について、学生自らが振り返ることができるような関わりを意識して、学生指導を実施している ・未修了科目の履修の方法など、教務会で協議を行い、学生や保護者を交えて、学校としての方針を説明している また、「再履修願」を提出させ、計画的な履修が可能となるよう意識付けを図っている ・出席状況の確認をガイダンス担当者が行い、遅刻や欠席の多い学生への指導を行っている	
	14	実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っているか。	4	・H30年度に新中央病院が開院し、CFルーム、学生専用スペースが確保されている。 ・実習指導者は固定している。 ・病院実習の学生配置は、1病棟4人程度までの、少人数制となっており、臨床指導者から手厚い指導を受けることができる。 ・現在、H30年度より一訪問看護ステーションが減となり学生配置に実習施設・学校とも苦慮しており、新規の実習施設を開拓しているところである。 ・H25年度から、各学年毎に中央病院関係者と学生との「語る会」を開催していたが、平成30年度のみなかった。本年度より再開し実習への要望を聴取していた。 ・病院実習では、学生の学習進度やレディネスに合わせた指導をしていた。 ・実習の終了前・終了後に指導者会を開催し、学生レベルの向上のため、検討を実施している。 ・人員配置は定数に比べ充実している。	・実習施設確保のために、今後も学校として実習施設との連携を欠かさず行っていく。 ・看護教員経験を積みながら専門性を研鑽していく。
	15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。	4	・評価基準、評価方法は、履修概要などに掲載して公表している。また、講義、演習・実習オリエンテーションで、その内容を具体的に説明している ・実習評価は、教員と実習指導者で評価するように努めている ・演習のチェックの結果は、学生に口頭で説明し、評価の根拠も伝えて、返却している ・テスト結果は、点数だけ返す場合もある。理由や採点結果を学生に伝え、申し出があればテスト内容は確認できるようにしている。 ・演習・実習の評価について、毎年、見直しを実施している	
	16	実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか。	4	・ガイドラインを作成し、実習オリエンテーションにおいても説明を行っている。また、履修概要や臨地実習要項に掲載している ・学生の受持ちについて、患者から、文書での同意を得ており、苦情もない。 ・患者・家族から意見をいただくことはあったが、学生にその都度指導している。	
	17	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4	・インシデントの発生時には、事故報告ルートに沿って、指導者や実習責任者等への報告は必ず実施している。 ・改善策の検討については、指導者と学生、教員と学生の二者の場合が多い。 ・領域別実習中のカンファレンスで、事故防止についてのテーマを取り上げ、教員・指導者・学生の三者で、話し合うこともある ・必要時、他の学生への情報提供や注意喚起を実施しており、予防策や医療安全の考え方を再確認している	・学生の情報漏洩等、問題が生じたときに、迅速に対応できるよう、日頃から学校と指導者との連携強化を継続
	18	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4	・実習施設と定期的に指導者会を開催し、実習状況の報告や実習内容の依頼を行っている ・受持ち患者の選択について、指導者と事前の打合せを行っている。日々の指導者が固定しない施設では、実習後の反省会は、指導者との話し合いがもてないことがある ・実習指導者と教員の役割は、文章化されており、実習要領に記載あり ・日々の指導場面において、教員と臨床指導者が情報共有すると共に評価も共同で行っている ・H27年度～29年度は、主たる実習病院からの要望により、学生への実習指導方法について看護教員による講義を実施し、指導方法の共通理解を深めている。	
19	学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	3	・授業評価(講義・演習)は、H25年度から、学校として統一したアンケート様式で評価を開始した。H26年度からは、前年度の実績をとりまとめ、学校としての改善点を検討している ・非常勤講師の授業評価は、未実施。感想を書かせておられる講師もあるが、教員は把握できていない ・授業評価(実習評価)についても、H26年度からは、学校として統一したアンケート様式で評価を開始し、学生アンケート結果をまとめて、指導者会で検討している。 ・H27、10月からは、授業評価(講義・演習・実習)の結果をホームページに公表している。	・現在は、授業評価は、専任教員だけが行っているため、今後は、非常勤講師へも、授業評価を検討する。	

③ 入学・卒業対策	20	より多くの応募者を確保することに努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの実施や県政よりへの掲載等を行い、積極的にPRしている。R1. 6月実施のオープンキャンパスは、参加者数が増加した(89名→173名の参加)。開催時期については、参加者アンケートから、時期は適切であるという結果である。</li> <li>・H26年度から、学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設等に掲示を依頼している。また、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した。</li> <li>・毎年7～8月にかけて東部地区 推薦指定校の学校訪問を実施し、入試の説明と同時に在校生の近況を報告し、情報交換を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者数や入学者の状況から、県内定着が期待される兵庫県北部や鳥根県東部の高等学校へ学生募集依頼を検討する。</li> <li>・学生募集に向けて、受験生に興味を持ってもらうことのできる入学試験の媒体を県庁広報課の指導のもとに作成する</li> </ul>
	21	国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策の担当者を配置している</li> <li>・H26年度から、解剖学、病態治療学に加えて、社会保障制度の特別講義を実施している。</li> <li>・教員は、意図的に、授業の中で国家試験関連問題を解かせており、知識の定着に努めている</li> <li>・H27年度から「看護師国試問題Web」を導入し、外部講師への講義依頼の際に、国家試験問題を情報提供する等、国家試験を視野に入れた教育内容としている</li> <li>・模擬試験結果を分析して、成績不良者には個人指導を実施している</li> <li>・不合格者があれば、模擬試験の情報提供や受験手続の指導を実施している</li> <li>・H26年度から、低学年からの学習を促すため、1年生から夏季休暇時の課題、国試オリエンテーションを複数回実施し、学習の仕方を説明している</li> <li>・国家試験全員合格を目指して、外部業者の国家試験対策特別講義を3年生に対して、12月に計画した。H29年度から2年生にも外部業者の特別講義を実施し、国家試験対策の強化を図っている</li> <li>・国家試験の合格率 <ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度 100% H27年度 94.3% H28年度 97.1% H29年度 97.4% H30年度100%</li> </ul> </li> <li>・教員の力量形成のため、県外研修(国家試験セミナー)に 1～2回/年、複数の教員を派遣し、対策強化に努めている。</li> <li>・H17年度より実施している「保護者会」において、学習支援への協力を依頼している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験に全員合格できるよう成績不良者への個別指導の更なる強化が必要</li> </ul>
	22	質の高い、適性を備えた卒業生を多く輩出するための努力を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回程度 専任教員による定例の面談を持ち、それに加えて、必要時に面談をもって学習支援を行っている。</li> <li>・メンタル面で悩みのある学生に対しては、学校カウンセラーとの面談を動いている。</li> <li>・学生の特性や人権意識を高めるために、特別講義を実施している。H25年度から「いつかはババママ専業」を開始、H27年度、H29年度には「デートDV予防学習」、H30年度は「インターネットにおける人権」、R1年度は「ハンセン病患者・回復者の人権問題」を実施した。</li> <li>・H26年度入学生から、入学前学習(数学・国語・理科・社会 スタートアップトレーニング)を課し、入学後4月中旬に確認テストを実施している。その結果を分析し、日頃の学習指導に活かしている。</li> <li>・H29年度は、1年生に対して「解剖生理学クリアブック」の問題をノートに解いて、毎週提出させ、低学年からの知識の定着と家庭学習の継続に繋げている。H30年度以降は4月に全員1冊看護雑誌を購入し、学習に役立てるようにしている。</li> <li>・演習(技術試験 8項目)については、認定試験に合格する水準に達するまで、担当制で、丁寧な個別指導を実施している。</li> <li>・日頃から、より専門的な知識や技術を習得するため、非常勤講師として認定看護師や専門看護師等の有資格者に講義を依頼している。</li> <li>・鳥取県臓器移植コーディネーターや、人権に関する講義等、特別講義等を毎年計画している。</li> </ul>	
23	卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度から鳥取県看護職員就職・進学ガイダンスは1年生が学校行事として参加し、低学年にも県内施設のPRを実施している。</li> <li>・各施設が実施するオープンホスピタルの積極的な参加勧奨も実施しており、1年生から多くの学生が参加している。</li> <li>・鳥取県修学資金のPRを新入生のオリエンテーションに組み込み、貸付を勧奨</li> <li>【鳥取県修学資金貸付者率(各年4月現在)】 <ul style="list-style-type: none"> <li>H27年度実績 102人/121人 84.3%</li> <li>H28年度実績 98人/121人 81.0%</li> <li>H29年度実績 89人/127人 70.1%</li> <li>H30年度実績 83人/122人 68%</li> <li>R1年度実績 86人/124人 69.4%</li> </ul> </li> <li>・鳥取県修学資金貸付者率の増加に伴い、県内就職者率も増加している</li> <li>【鳥取県内就職者率(進学者・県外者等を除く)(各年3月31日現在)】 <ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度実績 32人/34人 94.1%</li> <li>H27年度実績 27人/27人 100%</li> <li>H28年度実績 30人/31人 96.8%</li> <li>H29年度実績 37人/37人 100%</li> <li>H30年度実績 28人/36人 100%</li> </ul> </li> <li>・既卒者や中途退職者のうち、学校に相談のあった卒業生に対して、親身に相談のっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当校卒業生の中でも、離職する者がある。その実態を専任教員間で、共通認識しておく必要がある</li> </ul>	

④ 学生生活への支援	24	学業継続のための支援体制が整っているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に対しては、入学直後(4月)に、カウンセリングについての特別講義を実施し、カウンセリングの意義について、動機付けを図っている。また、臨地実習や国家試験等が本格化する3年生に対しても4月の段階で、カウンセリング特別講義を実施している。</li> <li>・カウンセリングの日程は、事前に白板に掲示している。カウンセラー作成の「たより」の発行を行い、カウンセリングのPRを図っている</li> <li>・休学者、不登校者には、本人及び保護者に定期的に連絡を取り、丁寧な復学支援を行っている。また、随時、学校としての方針を決定した上で、対応を行っている</li> <li>・なお、対応困難事例は、専門機関に相談するなど、スーパーバイザーに助言・指導を受けて、関わっている</li> <li>・感染症対策として、入学時に、抗体価検査(麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・B型肝炎・Tスポット)を実施し、抗体価のない学生に対しては、予防接種を積極的に勧奨している</li> <li>・また、インフルエンザについては、毎年、11月頃に全学生・職員に対して、予防接種を勧奨している</li> <li>・H23年4月1日から 敷地内禁煙とした(中央病院の敷地内禁煙と併せて実施)</li> <li>・高等教育の就学支援新制度の機関要件の確認を受け、R1年9月20日に県と学校ホームページに申請書をアップした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度の鳥居内部改修工事では、カウンセリング室の位置は現在の湯沸し室に移動する。このため、学生が入室しにくい雰囲気解消される予定である。</li> <li>・2020年4月から開始される高等教育の就学支援新制度の機関要件に、学校関係者評価を2020年4月には運営が条件であるので学則変更、学校関係者運営規定や、学校関係者評価委員の委嘱等をしていく。</li> </ul>
	25	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望のとりまとめを1・2年生の3月に、個別面談を3年生早期に実施している。また、就職意向調査をもとに、関連する就職情報を個別に提供している</li> <li>・就職施設から郵送された情報は、図書室の指定場所に置き、ポスターなどの掲示は、教室やローカに貼付している。</li> <li>・H27年度から図書室の就職・進学コーナーをリニューアルし、分かりやすい表示、先輩からのメッセージを掲示するなど、情報提示の方法を工夫した</li> <li>・中央病院看護師(本校卒業生)が来校し、数年前から、先輩看護師と学生との「語る会」を毎年実施し、職場の様子等を聞く機会を設けている</li> <li>・就職試験(面接)対策として、H25年度から、3年生4月の早期に、講演「面接試験の秘策を学ぼう」を、H28年4月から、3年生4月の早期に、講演「就職に向けて、自己紹介書の書き方を学ぼう」を実施し、就職のための応募書類の書き方、自己紹介書(エントリーシート)の記載及び添削の知識を習得する機会を設けた。</li> <li>・H30年から面接試験の講義を活かした模擬面接を開始した。模擬面接の講師確保が難しいため、2年生3月に時期を変更して実施している。</li> <li>・H27、10月実施の学生による学校評価アンケートにおいて、学生より「進路選択の幅が広がるよう、就職、進学についての説明を充実してほしい」との要望があるため、3年生は4月オリエンテーションの場を活用して、1・2年生は7月と3月の2回、学年毎に、分かりやすい資料を作成し、具体的な説明を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関しては、ハローワーク職員、模擬面接の講師の確保ができるよう今後も協力を依頼していく。</li> <li>・様々な分野で活躍している卒業生を招き、その活動を紹介し、働く喜びや進路選択の一助となるよう学習会を企画する。</li> </ul>
	26	卒業生への支援を継続的に行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口は固定していないが、卒業生の出入りはある。その都度教員が対応している</li> <li>・学校として、卒業生への支援事業は実施していないが、相談があれば、対応している。R1年度は県外病院の就職先から依頼があり卒業生のカミングホームを受け入れた。</li> <li>・卒業生に対して、図書室や情報科学室の利用を許可しており、看護研究の側面的支援を行っている</li> </ul>	
	27	サークル活動やボランティア活動など、学生の自主的な活動を支援しているか。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生サークル活動を含めた自治会担当は、教員の担当制をとっており指導体制は整っている。サークル活動は活動実態の把握のため、H26年度より、届出制とした</li> <li>・H31、4月から現在、3団体が活動している。</li> <li>・サークル活動の活性化を図るため、後援会によるサークル活動助成制度があり、人数に応じてサークル同士で割り当てを決めている。(3サークルで5万円)。</li> <li>・サークル活動団体の交流会は実施していない</li> </ul>	

⑤ 管理運営・財政	28	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の予算要求(報價費・旅費・実習施設謝金・図書備品・教材備品・教員研修旅費など)を前年度に実施。H30年度から教材備品・図書について要求した予算がつかず、基金を利用して教材備品を確保している。</li> <li>・年度途中で急遽必要となった修繕経費等のうち、学校運営費で対応できない場合は、福祉保健課や医療政策課に相談し、執行できるように工夫している。</li> <li>・節電や印刷紙裏面利用などを推進しており、経費削減の努力をしている</li> <li>・H28. 8月にLED蛍光灯を廊下、3教室、職員室に設置し、省エネの推進を図った。R1年8月には電話機を更新した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による学校評価アンケートにおいて、「備品が古い」との意見もあり、備品の耐用年数を確認し、順次更新していく必要がある</li> <li>・鳥害のR1～2年度に行われる改修工事の際に、教材備品状況や職場巡視結果、職員の見解を取り入れ、予算化を図っていく。</li> </ul>
	29	学生や教職員等の人権や個人情報の保護について十分な配慮がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度に個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を作成した。H27年度には個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を履修概要に掲載し、注意喚起を図ると共に、実習前には幾度となく、個人情報保護について説明している。</li> <li>・実習記録は、H26年度に職員室ロッカー(鍵付)を1つ増やし、職員室に2つ整備して保管している。</li> <li>・H30年度から、SNSによる人権問題について特別講義を実施し、看護学生として実習や学校内での情報の取り扱いについて注意喚起を図っている。</li> </ul>	
	30	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアル(H18年8月作成)、消防計画(H18年4月)等の整備は行っており、毎年見直しをして使用している。</li> <li>・危機管理マニュアルは、学校独自の物は作成していないが、県作成の物を使用できる</li> <li>・防災訓練は、入学時早期に、毎年1回実施している</li> <li>・非常時の食料備蓄として、H27. 7月にビスコ30缶・ナビスコ30缶・飲料水168本を備蓄(5年間で有効)</li> <li>・交通安全については、交通安全週間の際にはチラシやポスターを掲示し、学生・職員に注意を呼びかけている</li> <li>・毎年、4月に職員連絡網を作成し、連絡体制を明らかにしている</li> <li>・不審者に対しては、本校玄関に養護学校警備員が、8:00～16:00まで、常駐しており、抑止力となっている</li> <li>・H29年3月に防犯カメラ(5か所)を設置した。また、H29年4月1日付けで「防犯カメラ設置及び運用規程」を作成し、併せて、防犯カメラ作動中の掲示(3か所)を行い、防犯体制の確立を図っている。</li> <li>・地震対策を視野に入れ、3年計画(H25年度～27年度)で、突っ張り棒の整備を行った。また、H29年度に耐震用ハーディガードを設置し、教材物品の落下防止を図った</li> <li>・H28年10月に発生した鳥取県中部地震の教訓から、全学生に対して非常持出しグッズ(携帯ライト・ホイッスル・生用品・非常食等)を学校ロッカーに配備させた。また、学校借上げの宿泊施設に水・ビスコ・懐中電灯等の整備を行った。</li> <li>・H29年度から救急箱、拡声器・ラジオ等の持出し物品を整備し、毎月点検を実施している。</li> <li>・地震、弾道ミサイル落下に備えて、H29年度から学生及び職員にヘルメットを配備し、平成30年度入学生には入学時に購入する体制をとった。</li> <li>・マチコミアプリを導入し学生・職員の全員登録を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央病院外構工事終了し、外校R2年度には内部改修工事があるので、避難経路や避難場所等について外部機関と調整し、防災計画の整備を行う。</li> <li>・R1年度末の鳥取看護専門学校新玄関ができるので、玄関に防犯カメラを設置の予算確保を行う。</li> <li>・2020年には非常時の食料備蓄が消費期限となるので、予算要求していく。</li> </ul>
	31	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27. 4月から、図書室に意見箱を設置した。意見箱に投函された意見や要望に対して、迅速な対応を心がけており、対応結果は、掲示板に掲載している。中央病院の移転に伴い、自販機の設置や菓子販売の希望があったが、設置場所・電気使用料・購入や補充の際の音問題など検討して自販機について入札の段階に入った。</li> <li>・H26年度から、学生による学校評価アンケートを実施し、その対応策は、アンケート集計結果と共に説明会を開催して、学生に周知を図っている。</li> <li>・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施し、図書購入や図書室利用時間等の希望について対応したが、個人学習机の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭隘で、予算措置も困難なため、対応できていない</li> <li>・H25年4月に、卒業式服装について、学生からの要望が有り、自由な服装に変更し、その対応を学生は、大変喜んでる。</li> <li>・H26年度、H28年度は、学校川柳を募集し、間接的に学生の声を把握した。</li> <li>・H17年度から保護者の要望により、「保護者会(1回/年)」を実施している。開催にあたり、出欠票に意見や要望記載欄を設け、意見聴取している。なお、会の進行は、後援会役員の協力を得て、学年懇談会を運営し意見が出しやすい雰囲気づくりを図っている。保護者会で得た意見や要望は、学校の問題として取り上げ、迅速に誠意を持って対応している。</li> <li>・H30には学生からの意見により、男子トイレ入り口にカーテンを設置し、トイレドア開閉時のプライバシーに配慮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自販機の設置場所については、R1年度に設置し利用方法や業者との調整で、R2年度には設置場所を検討する。</li> </ul>

⑤ 施設設備	32	校舎等は耐震性に優れ、安全が確保されているとともにバリアフリーなど障害者の利用に配慮された構造になっているか。	1	・耐震診断はクリアできている ・校舎が2階にあるが、エレベーターがない(校内に段差はない) ・トイレの入口は狭く、車椅子で入る事は困難。車椅子に対応したトイレの設置がない ・教室、研修室の床がたわんで危険な箇所があったため、H27. 8月に、3つの教室・研修室の床張り替え工事を実施し、安全に配慮した構造に改修した ・学生の安全確保のため、H28年度にAED装置(ボックス付き)を設置した	・R2年度には女子トイレはすべて洋式トイレに、男子トイレの洋式トイレを2つに増やし、障害者の利用に配慮した施設に改修する設計・予算措置が終了した。 ・H31年度の新玄関改修工事と、H32年度の2階改修工事期間中の学校運営について、医療政策課等、関係機関と共に課題を整理し、努力する必要がある。
	33	教育目標達成に必要な施設設備及び教育内容に相応しい教材が整っているか。	3	・H25年度は、研修室オーディオ装置、情報処理室パソコンの新調、冷暖房完備等、積極的に整備を行った ・教育教材(モデル人形・模型等)は、地域医療介護総合確保基金事業補助金を活用して、順次整備している。 ・H27年度から看護研究に活用するため、「最新看護索引Web」を導入し、学習環境を整備した ・教室、研修室、図書室以外で、グループワークや自己学習等、学生が自主的に学習するための設備となっていない。 ・情報科学室のインターネットの不都合が生じており、授業や自己学習に支障をきたしがちである。	・H27. 7月実施の保護者会アンケートや学生による学校評価において、備品の古さ、品不足等の意見があり、備品の耐用年数を確認し、順次更新していく必要がある。 ・情報科学室のインターネットについては業者と調整中
	34	学生のための福利厚生施設は整っているか。また、学生の施設利用に当たっては学生の意見が反映されたとともに積極的に活用されているか。	1	・学生ラウンジなどの福利厚生施設がない ・体育館は、養護学校から借用しており、学生が自由にスポーツをする場所がない ・食堂は、教室、研修室しか食べることがない ・トイレの数が女子トイレ5つ・男子トイレ2つと学生数と比較して少ない。外部講師の専用トイレもないため、講師は遠慮され、学生が終わるのを待っておられる講師もある。R2年度の改修では女子トイレは5つから8つに、男子トイレは2つから5つに増え、少ないトイレの数による休憩時間の混雑の解消が図れる予定である。 ・H29年度は高身長男子学生の体型にマッチした机・椅子の整備を開始し、順次整備している。 ・中央病院の移転で短時間で利用できなくなり、H31年学生の声に、自販機の設置や菓子販売の希望があった。設置場所・電気使用料・購入や補充の際の音問題など検討して自販機について入札の段階に入った。 ・研修室に冷蔵庫・電子レンジを設置している。R1.9月には在宅準備室に浄水器を設置し学生が利用できるようにした。	・学生のためのラウンジや自治会室等の福利厚生設備が必要 ・学生のためのアメニティ設備の充実については、校舎のスペース的に整備が難しい。 ・H32年度の男女トイレのフルリフォームを行う予定であり、工事期間中の代替トイレを確保していけるよう協議していく必要がある。
	35	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	3	・図書整理は、年3回行っている ・H31. 4. 1現在、雑誌22誌、書籍4, 782冊と国の指定基準はクリアできているが、古書が多い(ここ10年に購入した本は、1, 500冊程度と3割に満たない) ・司書等の管理者はいないが、司書の資格を有したボランティア(本校卒業生)が積極的に図書整理をしていただいている。なお、図書検索システムなどの設置はない。 ・図書室に、自習のスペースはあるが、個人学習ができる設備になっていない。 ・図書の予算(備品図書経費)は、毎年50万程度であったが、H30・31年度は図書の予算がつかず、後援金を活用し購入している。 ・学習教材用ビデオ・DVDを学生が有効活用できるように、保管場所を講師控室から図書室に移動すると共に、一覧表を作成した。 ・夏季休暇等の長期休暇中の図書室利用は認められているが、時間外利用は、原則認めない。 ・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施した。その中で、図書購入希望や図書室利用時間等の希望について対応した。しかし、個人学習机の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭小で予算措置も困難なため、対応できていない。 ・実習カンファレンスの準備のため申し出があれば、図書室の時間外利用を許可している。	・図書室以外に、個人学習のできるスペースの確保が難しい。現在ある部屋を学生の授業予定に合わせて使用できるように柔軟に調整を図る必要がある ・教育機関として図書の整備を行うことは重要であるので、予算を確保し図書の購入(学生の使用頻度の高いマニュアル本等)を計画的に行う必要がある
	36	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。	2	・H26.10.4 中国四国厚生局指導調査において、洗髪車1台・新生児用コット1台・保育器1台・小児用ベッド2台・シュネルム1台の整備を指導され、保育器は中央病院より贈与を受け、その他の備品はH26年度に購入済みである ・実習室が狭く、ベッド14台しか配置できず、学生4人で1ベッドを使用している。 ・教育教材(モデル人形・模型等)は、予算要求を行うがH30・H31年度は予算確保できず、地域医療介護総合確保基金事業補助金等を有効活用し、順次整備している。平成30年度の基金で、きんちゅうくん、高齢者体験装具、導尿洗腸シミュレーター(男性用)、産褥シミュレーター、褥創シミュレーターモデルなど整備できた。 ・H30年と令和1年に順次、実習室と準備室の水栓を自動水栓に交換できた。 ・近年、男子生徒が多くなり、清拭などの演習の際に、ベッドを仕切れず、苦慮している。令和2年度には鳥糞跡地の内部改修工事でシュミレーション室が2室できれば、演習時の工夫が可能になる。	・実習室の面積を広げ、ベッド台数を増やすことは現時点ではできないが、講義や演習の効率性の観点から、ベッド20台の整備が必要であり、実習室の拡充を希望していた。 療育園移転に伴う、養護学校の跡地利用を行い、今後シュミレーション室を整備することで、シュミレーションモデルを常時学生が使用できるように配置し、学生が効果的に技術練習できるよう整備を図る必要がある。
	⑦ 教職員の育成	37	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	5	【人権研修等】 ・人権研修、不当要求研修など、職場内研修を年1回実施している。なお、研修は、全員参加を原則としている ・県は、人権研修を職員一人あたり年2回以上受講するように定めており、本校受講率は100%である(他の所属より高率) ・職員研修として、パワーハラスメント研修を、H27. 4月と、H30. 12にはアカデミックハラスメントについて学び、アカハラのない学校づくりについて学習を深めた。 【教育研修】 ・H25年度は、県外先進校視察(あじさい看護福祉専門学校)に2名の教員を派遣し、実習指導技術の向上のため、ポートフォリオの活用やルーブリック評価の実践を学んだ。 ・H27年度、H28年度は、「基礎看護技術の学内演習方法の見直し」を教員研修テーマに取上げ、各領域での演習内容の重複や不足部分の洗い出し、病院の新人研修の見学等を行い、教育理念に合致した教育内容となっているかの検証を実施し、改善点はH29年度教育内容に反映させた。 ・H29年3月、臨地実習を依頼している実習指導者、専任教員を対象とした「教育研修会(看護教育に活かすドラー心理学(理論編))」を実施し、好評を博した。 ・平成30年度は「発達障害等のある学生支援—看護基礎教育を念頭に」を教員、実習指導者を対象に研修を実施し、修学支援について学べた。 ・令和元年度は「看護基礎教育課程における実習指導のあり方」と題し、広く実習施設から参加を募り、県立の看護学校にも参加の機会を広げた。
38		学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	2	・学会や教育に関する研修の伝達講習は実施していないが、復命書は、必ず供覧している。 ・職場内で、情報交換している。	伝達講習会の計画をしていく。
39		教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。	2	・新たに担当する科目について、実習施設での臨床看護研修を実施している H18年8月(5日間):訪問看護ステーション 教員1名 H21年8月(5日間):産婦人科医院 職員1名 H21年8月(6日間):精神科病院 職員1名 H22年8月(3日間):中央病院小児科 職員1名 H22年8月(5日間):精神科病院 職員1名 R1年5月(2日間):手術室、HGU 職員1名 ・在宅看護論実習において、学生の受持ち療養者宅に実習指導者・学生に同伴訪問を行い、最新の指導技術を学んだ	
40		教員が計画的に研究調査活動を行うよう体制を整えているか。	1	・学会等で発表することはあるが、計画的でない ・研究指導経費(講師助言指導のための報償費 36, 000円)は予算措置されているが、近年使用した実績はない。また、研究室等の設備がない	・実践報告なら、取り掛かりやすい。研究となると倫理委員会を通す必要があるが当校にはない。
41		教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	2	・H29年度は、新人教員の講義を題材にして、授業研究を実施した。 ・看護技術演習に協力した教員から、直接意見を聞く、もしくは教務会で意見交換をしている。 ・新人教員に対して、講義や演習指導案への助言を実施している。R1年度も新人教員の模擬授業を実施後授業に臨んだ。	・今後も継続的に授業研究を行い、教育内容の質の向上を図る必要がある。

⑧ 広報・ 地域活動	42	学校の存在を広く周知するため、積極的なPR活動を展開しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス、学校訪問、学校ホームページへの掲載、県政たよりへの掲載など、あらゆる機会を活用して、積極的にPRしている</li> <li>・H30年度、R1年度に看護協会の学生向け広報誌「ちよこれーとこずもす」の取材を受け、当校学生の写真が表紙に採用され、また学生の記事が掲載され当校のPRができた。</li> <li>・H25年度からクリアファイルの作成、H26年度から、新たに学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設等に掲示を依頼している</li> <li>また、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した。</li> <li>・学校行事は、必ず、マスコミ関係者に資料提供を行っており、取材があった場合は、丁寧に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの継続的な更新が必要</li> </ul>
	43	ホームページは適時更新し、必要な情報を掲載するなど内容の充実に向けているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26、8月に学校ホームページのリニューアルを実施し、学校行事の報告や学生の声など、若い年代が興味を引く内容に変更した</li> <li>・入試情報は、随時、最新情報をアップしている</li> <li>・在学生用や卒業生用のサイトがない(授業時間の変更や履修概要の掲載等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの継続的な更新が必要</li> <li>・学生の学びが、保護者や受験生に理解してもらえるよう新しい情報を随時、更新していく必要がある</li> </ul>
	44	地域社会の一員として、地域への貢献・奉仕活動を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、「ボランティア活動」を科目として位置づけ、1年～2年生で1単位(15時間)の単位認定を実施している。</li> <li>ボランティアの意義や目的について、1年次に講義を実施し、その後、自らが選択したボランティア活動へと参加し、積極的に地域貢献を行っている。</li> <li>・小中学校や病院等へ沐浴人形・DVD等の教材備品を貸出しており、教材備品の有効活用を図っている。</li> <li>・卒業生や病院関係者に図書室の開放を行っている。</li> <li>・毎年度、鳥取空港災害救助訓練に模擬患者役として2年生が協力している。</li> <li>・学校として、公開講座や施設見学などの取組みは実施していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の存在をPRするためには、公開講座等の取組みが必要。たとえば、小学生を対象とした看護師の職業体験(看護キッズケア)の実施。</li> <li>・授業参観、保護者や地域住民を対象とした公開講座の実施の検討</li> </ul>
	45	行事等において地域との連携・協力関係が確保されているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に地域住民が参加することはない。</li> <li>・各関係団体等の事業に協力 <ul style="list-style-type: none"> <li>H24年度:実習病院 看護研究発表会の助言者、実習指導者会での指導方法についての特別講義</li> <li>H23年度:小学校「性教育」、中学校「仕事セミナー」以降は依頼がない。</li> <li>H16年度から鳥取県実習指導者養成講習会(1回～2回/年) 講義やグループワーク指導者教員4名～5名、特定分野の講義の講師派遣をしている。</li> </ul> </li> <li>・毎年、1月実施の学生研究発表会に実習施設指導者に参加していただき、助言を受けている。</li> <li>・H24年度より看護教員養成講習会の実習を受入れて、看護教員養成の実習校として協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、学校として、地域貢献できれば最善であるが、学校運営との検討が必要。</li> </ul>